



子どもが学校の主役となる教育を目指す 杉並区立沓掛小学校



このシリーズの第4回は、沓掛小学校の鈴木祐一校長先生からお話を伺いました。

★概要

沓掛小学校（以下「沓掛小」）は、1953年若杉小、杉五小、桃一小、桃五小からの児童により開校、今年は67周年を迎えています。「沓掛」は街道筋など沓（馬のわらじ）が木に掛けられていたことなどを指す言葉ですが、その名前は、今の清水、今川、桃井の一部となる江戸期からある沓掛町に由来します。学校は妙正寺川の畔に立地（敷地面積1.1ha）、校庭の端は妙正寺川の河岸段丘にかかり階段状の観覧席が設けられて連合運動会の会場にもなっていました。在籍する児童数は606名（2020年9月12日現在）、20学級からなっています。新型コロナウイルス感染症拡大から大幅に学期運営の変更でご苦労のある2学期、ご多忙のなか取材を受けてくださいました。

★沓掛小の教育実践

沓掛小の掲げる標語は『未来を拓く』教育です。そのために3つのコンセプト（体、徳、知）を置いています。まず「元気（健やかな体）」：毎週木曜日の朝に、長縄・短縄・持久走を継続、これを「くっかけトライやる」と呼んでいます。中休みを30分とって元気いっぱい遊びます。2番目は「やさしさ（豊かな心）」：異学年交流や地域の方々との交流を通じて、豊かな心を育みます。「たてわり掃除」（毎週金曜日、高学年をリーダーに学校を清掃します）、「幼保小交流」（近隣の保育園・幼稚園と様々な交流の実施）など。3番目は「かがやく瞳（確かな学力）」：基礎・基本を重視し、学び合いを大切にする指導で学力向上を図ります。「全学年算数少数人数指導」、「ペア・グループ学習」、「ICTの活用」、「チャレンジタイム」（火・金の朝15分間、算数・国語の集中学習）など、これら3面から教育を行っています。



1年生は「大根の植植え」

また学校支援本部（「縁（ゆかり）」、2007年3月設置）のもとで教育課程内支援事業として「くっかけドリーム」「お仕事見本市」や茶道・華道体験、教育課程外支援事業として周囲の大人たちと交流する「ふれあいフライデー」や「夢企画」（土曜日に普通の授業ではできないこと、「囲碁教室」など）、また園芸ボランティアや学校周辺を視る「わんわんパトロール」など環境支援事業が地域の人々の支援で実施されています。

★特色ある学校づくり

①小中連携教育に向けた教育活動：AKAと呼称される天沼小（A）・沓掛小（K）・天沼中学（A）と連携して「言霊検定」、「百人一首大会」など伝統・文化の理解と発信力の涵養を行っています。また中瀬中学との連携もあります。②児童の安心安全のための教育活動・教育環境の徹底：避難訓練・安全指導などを関係機関および学校支援本部・住民とも連携して行っています。③開かれた学校づくり：「よくわかる！沓掛小学校」というA3一面の表によって児童だけでなく保護者もそれをみて、学校の方針を分かりやすく共有できる媒体があります。学校支援本部に加え2009年1月には学校運営協議会も設置され、学校ガバナンスも含んだコミュニティスクールとして機能しています。

学区内の松原氏の農場を利用した農業体験はユニークなものです。1年生の大根の種まき体験、2年生のブロッコリーの栽培、3年生の営農の講義、6年生ではじゃがいもの種芋植え、追肥、収穫、販売まで一貫した農業体験を組み入れています。これらも学校支援本部がサポートしています。



3年生は「ヤゴ救出作戦」



5年生は「百人一首大会」

★鈴木校長の学校への思い

校長先生からは印象的な言葉として、「子どもが学校の主役」となる教育を目指すという言葉をお聞きしました。ひとりひとりの児童は無数のよさや可能性をもっている。それを最大限に引き出し、伸ばしていくことが学校に課せられた責務であるとおっしゃっていました。児童ひとりひとりが自分をコントロールできること、自立していることが目指されています。

杉並区立沓掛小学校

住所：168-0081 東京都杉並区清水3-1-9 電話：03-3390-4158
ホームページ：www.suginami-school.ed.jp/kutsukakeshou/